幼なじみと同居！

空色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼なじみと同居！

【Nコード】

N2358P

【作者名】

空色

【あらすじ】

高校2年生の佐藤悟さとうみづるは、同じく幼なじみの高校2年の山田加奈子やまだかなこに恋をする。しかし、悟は、いつも加奈子と口げんかで、なかなか告白することができない。そんなある日、加奈子は悟だけに引越すことができず、告白もできずに困っていた。悟は加奈子の親友の、田中沙紀たなかさきから聞いた悟がとった行動とは・・・

第1章 加奈子との・・・（前書き）

小説を書く2作目のやつですが、暇がありましたら是非見ていただければなあと思っております。どうぞよろしく願います。

第1章加奈子との・・・

俺は、佐藤悟さとうご、高校2年生である。俺は、ある女の子に恋をしているのだ。

その子の名前は、山田加奈子やまだかなこ、俺の小学校からの俺の幼なじみだ。そいつは天然だけど、かなりかわいいんだ。加奈子は俺を好きになるわけがない。なぜなら、いつも口げんかをしているからだと思う。そいつは、俺の事を悟と呼び、俺は加奈子と呼ぶ。俺は加奈子に悟と呼ばれるだけで胸がキュンとなってしまう。

ある朝のことだった。俺はいつもの通り学校へ行っていると・・・「悟、おはよう！」と加奈子が挨拶してきた。俺は、この声を聞いているドキドキしてしまう。

そして、いつもの通り、「加奈子、おはよう！」と挨拶をした。いつも、加奈子とは会話が弾む。そして今日も、「悟、相変わらず来るのが遅いね。」「うるさいなあ！お前のほうが遅いじゃないか！」「うるさいって何よ！悟のバカ！」「お前のほうが馬鹿じゃないか！」「バカってひどい！」「っていう会話なのだから、いつもは、バカって言ったら泣かないはずなのに、なぜか、今日は泣いていた。どうしたのだろうと思っただが、俺は馬鹿なことを言ってしまった。俺は本当は加奈子ことをこんなにも好きなのに・・・」「泣くな！どうせ嘘泣きだと思っただけ！」「加奈子はそう言うった。」「嘘泣きじゃないもん！悟は何も気づかないの！悟のほうが天然でバカだと思っただけ！」「加奈子はそう言うて、走って行ってしまった。俺はなんてことを言ってしまったのだろう。

俺は、あいつがなんで泣いたのか分からなかった。そして、加奈子が言った。俺が加奈子の事で気付かないことは何だろうと思っただ。しかも、加奈子に好きだと言えない俺のほうがバカだと思った。

第1章 加奈子との・・・(後書き)

第2話もどうぞご覧ください。

引っ越しの・・・

俺は、次の日加奈子と話そうと思ったが、加奈子は来ていなかった。俺に加奈子の親友、田中沙紀たなかさきは、「あれ、悟君何も聞いてないの？加奈子は、5ヶ月後くらいに引っ越すんだって。今日は、偶然、風邪で休んでるけど。加奈子は、悟の事が好きなんだよ！好きなら早く、告白してあげなきゃ。」俺は、そのことを聞いてビックリした。加奈子が引っ越すことも、加奈子も俺の事が好きだったってこと。なんで、もっと早く気付いてやらなかったんだろって後悔をした。だからあの時、加奈子は、引っ越すから泣いていたのだ。あと、俺が加奈子の気持ちも気づいてやれなかった。加奈子は、俺の事が好きだったのだ。だったらあの時に告白しとけばよかった。

俺は、部活が終わった後、加奈子の家まで走って向かった。

加奈子の家・・・(前書き)

皆さん久しぶりでごめんなさい。

加奈子の家・・・

俺は、加奈子の家に行って家のチャイムを押した。けど加奈子は出てはくれなかった。

最後のチャンスだと思い、もう一回チャイムを押した。

そして、加奈子が出た。

「加奈子、引越すって本当か？」「なんで悟が知ってるの？」「お前の親友から聞いた。なあ本当なのか？」「沙紀に教えてもらったのね。そうだよ本当だよ。」「なんで!？」

「でも親は私を連れて行く気ないみたい。」「だったら!」「私ね好きな人いるの。その人のためにも離れるんだ。」俺は、ビツクリした。まさか加奈子に好きな人がいるなんて・・・しかし俺は。

「だったら俺のところでも暮らせばいいおれもちょうど1人暮らしだったからさみしかったし」「ありがとう。じゃあそうさせてもらうわ。明日からよろしくね。」俺は嬉しくてたまらなかった。しかし、加奈子に好きだっということが言えなかった。加奈子に好きだっと言えるのはもう少し後のことだった。

加奈子の家・・・（後書き）

悟と加奈子はついに同居することになりました。この後悟と加奈子
の間にどうなるのか楽しみにしてください。

加奈子目線・・・

私は、山田加奈子。悟とは幼なじみですぐに悟とはケンカをしてしまふ。

実は、悟の事が今でも好きなのだが、悟は気づいてくれない。

ある日私は、両親に呼ばれ、「加奈子、俺たち引越すことになった。もちろん、加奈子も一緒だ。」

そして私は、「なんで、嫌だよ!。」と言ったが両親は、「そんなのはだめだ。なんなら俺たちと一緒に行くか、ここに残るか決めなさい。ただし、俺たちはもうここには戻ってこないぞ。それでもいいならいいけど。」と言った。私は、迷わず「ここに残る!。」と言った。両親は、「分かった。加奈子がそうしたいならここに残ればいい。でもそれでいいのか?。」と言った。私は、「いいよ。」と言った。

この時私は、両親とは暮らさないが、ある決意をしていた。悟と一緒に暮らすとうといわれるまでは・・・。

加奈子目線（続き）・・・

ある日私は、風邪で学校を休んでしまった。私は風邪を引いても悟の事ばかり考えていた。そしてその時私は、親と別のところで暮らすことを考えていた。その後寝てしまい、いつの間にか親は外出していた。そして、ピンポンが鳴った。そして、ドアを開けたらなんと悟が立っていた。そしたらいきなり、「加奈子、引越すって本当か？」私は、少しだけ焦った。なぜ悟がそんなことを知っているのか。

私はこう言った。「なんで悟が知ってるの？」って。すると悟は、「お前の親友から聞いた。なあ本当なのか？」と言われた。私は、沙紀が言ったんだと分かった。だから私は、「先に教えてもらったのね。そくだよ本当だよ。」と言った。そしたら悟は「なんで!？」と言った。私は、「でも、親は私を連れて行かないみたい。」と言った。悟は、「だったら!」と怒ったような口調で言った。

そして私は、「私ね、好きな人がいるの。その人のためにも離れるんだ。」と言った。言っても悟は自分の事だと気づかない。その後、悟に嬉しいことを言われた。「だったら、俺の家に暮らせばいい俺もちょうど1人暮らしたかったから寂しかったし。」って。悟と一緒に暮らせるなんてすごく嬉しかった。

毎日ドキドキすると思う。だから私は、「ありがとっ、じゃあそうさせてもらっわ。明日からよろしくね。」って言った。私は、その後、悟に好きだって言われるなんてこの時は分からなかった。

悟に言われるのは、あともう少しである。加奈子目線とりあえず終わり

加奈子と・・・

そして加奈子と同居する日になった。

俺は楽しみで仕方がなかった。

加奈子はこの気持ちに気づいていない。早く告白しなきゃと分かっているものの素直になれず結局言えずじまいになってしまふ訳だ・・・。

そして、学校が終わり「悟、一緒に帰ろう。」俺はその言葉に胸がドキドキしてしまった。

そして俺は、「別に、いいけど」と言った。そしたら加奈子は喜んで顔をしていた。それを見た瞬間加奈子が可愛くて仕方がなかった。この加奈子の顔は可愛くて仕方がない。告白したいがどうやって告白したらいいか分からなかった。そう考えているうちに俺の家に着いた・・・。

「今日から、よろしくね。」「ああ。よろしく」という会話しかなく加奈子と家の中に入った。

いろんな場所を紹介してまた告白せずに1日が過ぎてしまった・・・。

でも来週加奈子と遊園地に行くことになっている。その時に告ろうと思う。

俺は、来週になるのがすごく楽しみにってきた。

俺は告白する内容を考えて眠ったのである・・・。

加奈子のお母さんが・・・

ついに明日、加奈子と久しぶりに遊園地に行くことができる！
俺は凄く楽しみにしている。

その時、加奈子から電話が来た。

「もしもし、悟ごめんね。明日、行けなくなっちゃった・・・。」
「なんで？」

「母が倒れちゃってさ・・・。大したことはないんだけど一週間入院だって・・・。無理しすぎたみたい。」

「そうか。それじゃあ仕方ないね。お母さんにもお世話になったからな。今度病院行っていい？」

「いいよ。悟が来たからお母さん喜ぶかもね。じゃあ切るね。じゃあね。」
「ああ、じゃあな」

俺は、加奈子のお母さんがまさか倒れるなんて思ってた。この後、とんでもないことが起こるなんて俺と加奈子はこの時知るよしもなかった・・・。

加奈子目線2

悟と暮らして、数日がたった。悟とは相変わらずケンカばかりだ。そして、明日悟と遊園地に出かける日になった。私は凄く楽しみにしていた。

私は、眠ろうとした時、お父さんから
そして医者から末期のがんだと告げられた……。
私は悟に電話した。

「もしもし、悟ごめんね。明日行けなくなっちゃった……。」「
「なんで？」

「母が倒れちゃってさ……。大したことはないんだけど一週間入院だつて……。無理しすぎたみたい。」「

「そうか。じゃあ仕方ないね。お母さんにお世話になったからな。今度病院に行ってもいい？」

「いいよ。悟が来たらお母さん喜ぶかもね。じゃあ切るね。じゃあね。」「ああ、じゃあな。」「

私は、電話を切った。私は悟の声に安心してしまい、嘘をついてしまった。このまま嘘を突き通そうと思った。実は1週間だけ入院というのも嘘なのである。お母さんにも嘘をついてしまい、悟と同じような嘘をついてしまった。本当は、あと1年しか生きられないらしい……。

医者も嘘を突き通そうと協力してくれるみたいだった。その医者にも申し訳ないと思った……。

これが悟に知られることになるなんて私は思いもしなかった……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2358p/>

幼なじみと同居！

2011年11月14日01時44分発行